特集 あのころの未来

編集にあたって

金岡 晃（東邦大学）

2015年10月21日．バック・トゥ・ザ・フューチャー PART2（Back to the Future Part II）で主人公のマーティ・マクフライらが改良されたデロリアンに乗りタイムトラベルした先が，とうとう今年になった．あのときに見ていた未来が，いまようやく目の前に来たのだ．思えば近未来を舞台としたSFでその時代がすでに到来している作品は多い．またほんの数年でそれらの未来に届く作品も多い．たとえば「2001年宇宙の旅」の舞台は2001年であるし，「新世紀エヴァンゲリオン」の舞台は2015年だ．「AKIRA」の舞台は2019年だが，作中で（正確には東京でなくネオ東京だが）来年オリンピックであるという描写があるなどというオマケもある．

近未来SF作品の楽しみの1つに，そこで描かれる未来の技術がある．そこで描かれた技術に興奮し憧れる者も多いだろう．あのときに描かれた未来の技術は，いま実現しているのだろうか．達成した技術もある．達成できなかった技術もある．そして別のやり方でその目的を達したと言える技術もある．それらを改めて俯瞰し，我々がどういう道筋で現在にたどり着いたか，そして今後30年でどういうことが起こるのか．それらを情報処理の視点から語るのも面白かろう，ということで企画したのが本特集である．

本特集では執筆者1人が1つの作品に対して語るという手法をとった．作品は執筆者の方々に好きに選んでいただいた．その際に作品の重複もありとした．これまで見てきたものやいま従事している分野が異なれば，おのずと同じ作品の違う面が語られるだろう，という予想からだ．その結果集まった作品はバラエティに富むものだった．小説，映画，マンガとメディアのジャンルも多岐にわたっており，企画当初に考えていたものよりも広く深くなった．

なにより推したいのは強力な執筆陣とその内容だ．いままで見たことのない作品であればきっとその作品が見たくなり，すでに見た作品でも改めて見てみようという気にさせる，作品への愛に溢れた文章が集まっている．それぞれの執筆者が伝える作品とあのころの未来への思いをご堪能いただきたい．

（2015年6月8日）